

## 城崎国際アートセンター (KIAC)

### 2020年度「アーティスト・イン・レジデンス プログラム」選考結果について

2020年度「アーティスト・イン・レジデンス プログラム」の公募には、23カ国から80件の申請がありました。選考委員とKIACスタッフで、波及力・国際性・地域性・革新性・将来性という5つの観点に基づいて議論し、プログラム全体のバランスやスケジュールも考慮し、計17組のアーティスト/プロジェクトを受け入れることになりました。

城崎国際アートセンター (KIAC) の役割は、優れたアーティストや将来性のあるプロジェクトに創作環境を提供することによって世界の舞台芸術の発展に貢献することと、豊岡の皆さんに多様な芸術活動に触れていただく機会を創出することによって地域の文化振興に寄与することにあります。

開館7年目となる来年度も、世界中から優れたアーティストやプロジェクトに滞在していただけることになりました。以下に2020年度のプログラムの選考と特徴について記します。

#### ●波及力

カナダの俳優・演出家のマリー・ブラッサールが日本の俳優・ダンサーとのコラボレーションで取り組む新作は、滞在制作を経て、5月にデュッセルドルフでのテアター・デア・ヴェルト2020で初演され、その後世界各地の劇場やフェスティバルでの公演が予定されています。

#### ●国際性

京都を拠点とする劇団ベベリカがアジア圏の乳幼児演劇に関わるアーティストのネットワーク形成を目的に実施する「アジアベイビーシアターミーティング」、ヨーロッパの若手振付家のネットワーク組織であるAEROWAVESとKIACの連携による交換プログラム「Spring Forward Exchange」、オーストラリアの現代人形劇団テラピン・パペット・シアターが日本のアーティストとのコラボレーションに取り組むプロジェクトでは、日本と海外のアーティストやプロデューサー間の交流促進と関係強化に取り組めます。

#### ●地域性

2014年から豊岡市内で毎年開催されている音楽祭「おんぷの祭典」とのコラボレーションを企画する森下真樹、豊岡市竹野町に残る相撲甚句とその保存会との協働作業を行う日本相撲聞芸術作曲家協議会 (JACSHA)、市が取り組む空き家対策を巻き込んでプロジェクトを展開する劇団ノットルらのコレクティブ。これらは市が有する文化資源や直面する社会課題と、それぞれの創作活動をリンクさせた取り組みを行います。

#### ●革新性

マレーシアのトッカータスタジオは観客参加型作品『モバイルフォン・オーケストラ』を台湾のアーティストと、現代美術作家の東芋はフランスのヌーボーシルクのパフォーマーとのコラボレーションを通して、それぞれの表現を更新することを目指しています。「身体の政治」を主題とする実験的な作品を創作する振付家の児玉北斗、東京という都市をモチーフに新作の創作を行うマレビトの会、自由回遊形式の作品を発展させるアンチボディズ コレクティブらにも、城崎での滞在制作がそれぞれの活動に新たな展開をもたらすことを期待しています。

#### ●将来性

20代ながらすでに多くの公演歴や受賞経験を持つ山田由梨の贅沢貧乏、田村興一郎、野村真人の劇団速度らの申請内容は、表現者としての現在地と課題を自覚し、今後の方向性についての明確なビジョンが感じられるものでした。また、アーティストの清水美帆と写真家の鈴木竜一朗という2名のビジュアルアーティストがパフォーマンスアーツの表現に取り組む試みや、ダンサーの梶子ぴじん、アーティストの三枝愛、ライターの高貫泰介の異なる専門性を持ったコレクティブによる共同研究には、そのプロジェクトのユニークさだけでなく、今後の発展性も期待しています。